

お世話になった方たちに恩返しをしたい

「転任となるたび、新たなまちでの生活が楽しくなり、地域の歴史を調べてきました」。

街道さんは、教員時代、各学校で郷土史関係の部活動の顧問を務め、その指導や郷土史研究などを行ってきました。登別の郷土史家・宮武紳一さんなど、多くの人のお世話になったそうです。

登別市へ転任となった際、宮武さんの誘いを受け、登別郷土文化研究会に入会。昭和60年に刊行した『市史ふるさと登別』の分担執筆もされています。

街道さんは、「前回の市史が刊行されてから30年以上がたっています。これに携わった者として、また、これまでお世話になった方たちへ恩返しするため、新たな市史編さんに及ばずながら協力でき



▲各地域で昔話を語り合っていた「市民による地域の昔を語る座談会」（写真は中央地区）

ればと思っています」と話します。市は、市史編さん委員の皆さんと共に、市制施行50周年を迎える平成32年度に新しい市史が刊行できるよう、資料収集などに取り組んでいます。

楽しく昔話をしませんか

平成32年度の市史刊行に向け、現在、各地で開催している座談会（市民による地域の昔を語る座談会）にも参加されている街道さんは、より多くの方に座談会に参加してほしいと話します。

「今までの生活を振り返り、語り合っていたただけで、市史編さんの大きな一歩となります。資料収集と言うと小難しく聞こえるかもしれませんが、気軽に参加していただき、昔語りを楽しみに来ていただければと思います」。

街道さんは、今日も地域の皆さんの話を聞き、まちの歴史をひもといています。

『市民による地域の昔を語る座談会』に参加したい方、昔のまちの様子などが分かる資料をお持ちの方は総務グループ（☎1130）までご連絡ください。
※関連記事は24ページ。

きらり

KIRARI

かい どう しげ あき
街道重昭さん（千歳町）

市は、郷土のぼりべつに関する歴史資料を整理保存し、後世に継承していくため、市民の皆さんのご協力のもと、新たな市史の編さんに取り組んでいます。

どのような市史にするかなどについて検討しているのは、市史編さん委員会の委員の皆さん。歴史や福祉、観光、教育など、市史を語るのに欠かせない分野に造詣の深い総勢10人の方が、先人の足跡を後世に残していくために尽力されています。

同委員会の委員長を務めるのは街道重昭さん。長年、教員として勤務する傍ら、赴任した各地でまちの歴史研究を行ってきた経験を生かし、委員会での調査審議や歴史資料の収集に取り組んでいます。

今回は、街道さんに、登別への思いや歴史を学ぶ楽しさについて伺いました。

皆さんから地域の歴史を聞いてより良い市史にしていきたい。



昭和15年、留萌市生まれ。76歳。

昭和38年に神奈川大学を卒業後、留萌市立北光中学校に着任。昭和57年には登別南高校（現・登別青嶺高校）に転任となり、以降、登別市に定住し、まちの歴史研究に取り組む。市民活動センターでの文化講座『登別歴史散歩』の講師や文化財審議会の委員長などを務め、歴史や文化の分野において活躍している。